

令和5（2024）年10月5日（水）発行

赤磐市桜が丘東 6-6-704

さくらが丘保育園

## 『もうすぐ運動会』

今年度の運動会のテーマは「したい、やりたい、してみんちゃい」です。こどもの主体性をプログラムにつなげられるように種まきをするところから始めようというところで取り組み始めましたが、それぞれのクラスで「主体性」の壁にぶつかりました。今までのあそびの中でおとなが先導している部分が多かったことに気づかされたのです。「〇〇をすることありき」ではなく、こどもたちが喜々としてすることの中に成長が見えてきます。

「したいこと」「やりたいこと」を安心してできるように環境を整え、後押ししていくことが私たちの仕事であることを再確認しました。岡山県の方言に「してみんちゃい」という方言があります。岡山弁が「きつく聞こえる」という話をよく聞きます。（私も実家は県外です）でも、「してみんちゃい」という響きは温かく感じるので好きです。運動会ではこどもの「したい、やりたい」という気持ちを「してみんちゃい」とこどもの周りの大人たちみんなで応援できたらと思います。

花房 由美



### 職員の異動がありました

9月中旬に、ゆき組担任の佐々木愛未が、転居の為退職いたしました。

なお、9月中旬より、フリー職員の谷口あいを、ゆき組の担任として配置しております。



## お知らせ

- 10月5日（土）は運動会（にじ・つき・ほし・そら組）です。  
10月2日（水）に発行する『運動会当日のお願い』を読んでいただき、時間・準備・お願い等、ご確認ください。  
※雨天時は、競技を縮小（つき・ほし・そら組）して、桜が丘小学校にて行います。
- 10月7日（月）～10月11日（金）は個別懇談です。（そら・ほし組：全家庭対象、つき・にじ・ゆき・はな組：希望家庭対象）  
おまかせ保育システムのお知らせで、9月24日に、各ご家庭あてに懇談日時をお知らせしておりますので、ご確認ください。



「だるまさんが泣いた」  
の声に合わせてみんな  
で泣く真似～！



とんぼのめがねを  
じーっと覗いてい  
るよ！





# すずらんより

## インフルエンザ対策

- ・手洗い・うがいをする。
- ・バランスのよい食事、睡眠をしっかりとる。
- ・気温に合わせた衣服の調節をする。
- ・部屋の換気をし、人の多い所はなるべく避ける。



## 予防接種

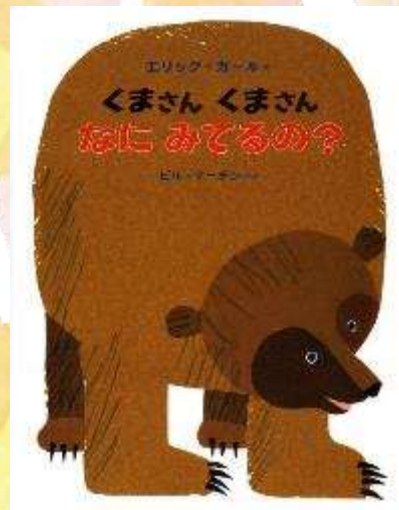
感染力の強いインフルエンザにかかりにくくなり、発病しても重症化するのを防ぎます。接種を受けてから抗体ができるまでには約2週間かかるので、受けられる場合は10月~12月頃には接種を済ませておきましょう。



## 私の好きな絵本

こどもの頃毎日繰り返し読んでいた大好きな絵本です。1ページごとにカラフルな動物たちが登場し「〇〇さん〇〇さんなにみてるの?」「〇〇をみているよ」という繰り返しのリズムが楽しい絵本になっています。

玉置 七彩



## 『クラスで今！ブームのあそび① そら組』



そらキャンプが9月中旬にあり、他施設との交流活動の中で、帽子取りをしました。

一人ではできない帽子取り鬼。“みんなですから楽しい”を味わえるように声をかけています。

チームが負けて、怒ったり、涙が出たりすることもあります。それは真剣にした結果。ルールを守りチーム内で協力して楽しめるようになるといいなと思います。

土屋 勇気

## 『クラスで今！ブームのあそび② にじ組』

“隠れる”“見つける”に分かれて、かくれんぼを楽しんでいます。

「いち、にい、さん」と鬼が数えてるうちに、急いで自分の身体を隠そうとしてしていますが、見えてることも…。隠れきれないその姿が、とてもかわいいです！

保育室や園庭、ホールなど、といろいろな場所にかくれんぼを楽しんでいます。

大森 航輝



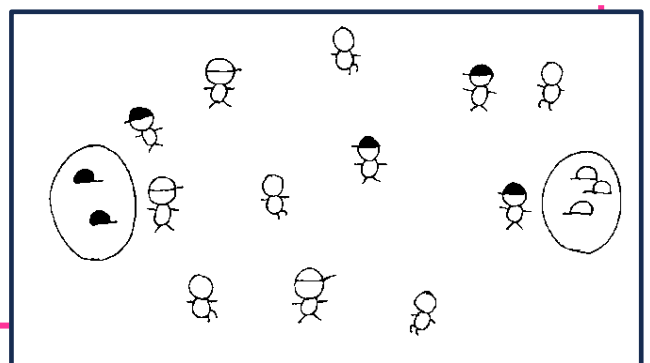
### ～集団あそび紹介～ 『帽子取り』（さくらが丘バージョン）

#### 《準備物》

- 白線で陣地を二つ描く
- こどもは帽子をかぶる

#### 《ルール》

- 青チームと黄チームに別れ帽子をそれぞれの色にする
- 帽子のゴムはしない（はずしておく）
- 帽子は手で押さえない
- 相手チームの帽子を取りに行く
- 取った帽子は自分のチームの陣地に持ち帰る
- 帽子が取られた子はその場に座る
- 帽子を多く取ったチームの勝ち







## 花は咲く



バケツ稲で米栽培に取り組んでいます。稲がどのように育って収穫して、お米ができるのかを知り、育てて食べることを体験する機会をつくっています。お米を作っている保護者から稲が分けつ（主軸から側枝が分かれて新たな茎が成長する現象）すること、稲穂と雑草の違い、必要に応じて肥料を与えること、バケツをより日向に置く、バケツに水を入れるなど教えてもらいながら、稲が育ち稲穂のふくらみと同じく楽しみもふくらんでいます。こどもたちからは、おにぎりを作りたい、さつまいもご飯が食べたいな、期待に胸を膨らませる一方、鳥が来てお米を食べないかなと稲穂が大きくなりにつれて気にする様子も見られ始めました。もうすぐ収穫時期です。みんなで食べるとおいしいだろうな。

そら組 土屋 勇気



給食中、友だちと笑顔で楽しそうにいろいろな話をしている場面を見ると嬉しく思います。給食室のお手伝いをした日には「これ、今日お手伝いしたの入ってるかな?」「こんなにおかわりした!」と友だちに報告。すると「私も!僕も!」と、食欲も増しているようです。

また、グループを新しくした時に、給食の時の席替えもしたのですが、今まで一緒に食べていた友だちではなく、違う友だちと食事をするのも楽しみにしていたように思います。

給食の時間を、“ご飯の時間だから食べる食事”ではなく、友だちと一緒に楽しかったな、美味しかったな、明日も楽しみだな、と思えるような食事の時間にしたいなと思います。

ほし組 下山 静菜



## いちばんぼし







給食はホールでつき組、ほし組、そら組と一緒に食べています。

食事の気分にならないAさん。保育者が声を掛けますが、それでも準備がなかなか進んでいない様子に気づいたそら組のBさんが、Aさんに声を掛け、椅子を出しました。するとAさんは嬉しそうな表情を浮かべながら準備をし、楽しそうに食べ始めました。苦手な食べ物があった際には、近くの席のお兄さんお姉さんや、友だちが応援してくれることで、「ちょっとたべてみようかなあ〜」という気持ちが芽生え、少しずつ食べられるようになっていきます。

つき組のこどもたちにとって、そら組、ほし組のお兄さんお姉さんの存在は大きく、憧れのようなようです。また「今日のご飯は何？」などこどもたちから保育者に聞くことも増え、食事の時間が楽しみになっているように感じています。これからも食事のマナーを伝えながら、みんなで楽しい食事の時間を過ごせるようにしたいです。

つき組 竹内 和羅



夏にモロヘイヤとレタスを栽培しました。

野菜が苦手な子も多く、モロヘイヤもレタスも苦手な子がいました。レタスはそのままだ、モロヘイヤはジュースにしたのですが、どちらも色は緑…。苦手意識の強い色ですが、直接食材に触れ「おいしいかな?」「どんな味かな?」と保育者やともだちと話をしていると、食材への興味も出てきたようです。

苦手な食べ物と睨めっこしているCさんは、周りの友だちや保育者が美味しそうに食べるのを見ると、「あの子も美味しそうに食べてる…。ちょっと食べてみようかな〜」という気持ちが出てきたのか? つられて食べてしまったのか? 少しずつ食べられる物も増えています。

「家では全く野菜食べないのに、保育園で食べてるの不思議〜」と言う保護者の方も多くおられます。その不思議は“みんなで食べる”というところに秘密がありそうです。

にじ組 大森 航輝





周りの友だちの存在に気づき、保育者・友だちと一緒に楽しむ食事へと変化してきました。

食事の際、向かいや隣に座っている友だちと目が合ったり、肘や手が当たったりして、友だちの存在を認識することがあります。目を合わせて微笑み合ったり、お互い食べている物を見せたり、コップで乾杯するなど、友だちとのふれあいが自然と始まっている姿がよく見られるようになってきました。なんとも可愛い姿で、一緒に給食を食べながらほっこりすることもあります。

食事中の姿勢や食べ方、食器の扱い方などを伝えることも必要なことですが、同じメニューの食事をこどもたちと一緒に食べながら「おいしいね」「嬉しいね」と気持ちを共有し、楽しい雰囲気作りを何より大切にしたいです。

ゆき組 土屋裕香



おはながわらった



給食の時間が楽しみで「ごはんいこう」と声をかけると、嬉しそうにランチルームに移動し、椅子に座ろうとしています。

離乳食が進み、食べられる食材が増えてきて、見た目や味の違いもよく分かるようになってきました。食べたくないものを見つけると、イヤイヤすることも。そんな時は「おいしいよ」と実際に大人が食べて見せたり「〇〇くんも食べてるよ」と、友だちの姿を見せたりすると、「パクッ」と食べることがあります。ちょっと食べてみると美味しかったのか、その後はパクパク食べる…“はなぐみあるある”です。

こどもと大人が、コミュニケーションをとりながら楽しい雰囲気と一緒に食事を取り、大人が美味しそうに食べたり、他の子の食べる姿を見せたりすることで、食への興味と、美味しさを存分に感じてもらいたいと思います。

はな組 玉置七彩

全私保連保育運動  
新しい時代は  
子どもから

# 保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

## その6 みんなで食べると おいしいんです

「食べること」は「生きること」。この言葉をよく見かけませんか？ どこか身近であって、どこか責任を感じる表現でもあり、どこか遠く離れた言葉に聞こえたりすると思います。日々、子どもたちと一緒に生きている私たちですが、改めて「食」を見つめると、みんな子どもだった「こと」を思い出すと、「食べること」は「生きること」が見えてくると思います。

赤ちゃんは、授乳時期から「食」は始まっています。まだ目が見えていなくても、大人の声を聞き、体温を感じ、心地よさの中で「食」を摂ります。離乳食が始まる頃は、大人やきょうだいが食事をする姿を見て、「食べたい」とよだれが出始める時期です。意欲的な「食」には必ず傍に誰かがいます。

園生活では、友だちの存在がとても大きいです。苦手なピーマン、隣の席の子がおかわりしていたから食べてみた！ 友だちと育てたキュウリ、サラダに入れたらおいしかった！ お泊



り保育で食べたカレーライスのニンジン、いつもと違う夜の過ごし方が嬉しくて、おかわりした！ など、日常の食事の「楽しさ」や「経験」から心が動かされ、意欲的な食事になります。子どもが楽しんで食べることは、食への意欲や関心を高め、偏食も減っていくきっかけとなり、

また「おいしい」を共有することで、人の気持ちにも関心を持つようになります。すると、友だちやさまざまな大人と関わる園生活だけで「楽しい食事」を経験できればよいのではと感じるかもしれません。ここで、自分の子どもの頃に戻ってみてください。「食事」の中のポジティブな記憶、ネガティブな記憶はたくさんあると思います。その記憶の中には、YouTubeやケータイと向き合って食事をする自分はいないと思います。食卓には言葉やまなざしがあり、感謝や涙もあったと思います。

毎日完璧に手作りしなくてもいいんです。全然食べてくれないわが子にため息が出てしまっても、そこは「園で食べているからいいか」と上手に変換してください。子どもには、家族と一緒に食卓に座る日常こそが心の栄養になっていると信じてください。家族との食事の土台があるからこそ、外での慣れない環境でも「みんなで食べる」とおいしいね」と感じられる心が生まれます。嬉しい記憶、おいしかった記憶はポジティブなものとして残り、一方的なものでも強制されるものでもなく、子どもたちにとって生涯生きていくための活力になります。